2011年 GNOBLE 5期生
東大理系 合格者ロングインタビュー

【出席者　※敬称略】

井上　奈津美	（いのうえ　なつみ）	お茶大附→理Ⅰ
奥戸　道子	（おくど　みちこ）	桜蔭→理Ⅰ
恩河　大	（おんが　まさる）	開成→理Ⅰ
加藤　夕葵	（かとう　ゆうき）	女子学院→理Ⅱ
小林　勇也	（こばやし　ゆうや）	私立武蔵→理Ⅰ
田中　慧里奈	（たなか　さりな）	女子学院→理Ⅱ
玉光　未侑	（たまみつ　みう）	学芸大附→理Ⅰ
中村　昴	（なかむら　たかし）	世田谷学園→理Ⅰ
平林　佳奈	（ひらばやし　かな）	女子学院→理Ⅱ
安田　陽平	（やすだ　ようへい）	栄東→理Ⅲ

Q ：グノーブルを知ったきっかけは？

恩河：高１の時にネットで英語の塾を調べていて、その時グノを知りました。

中村：僕は高 2 の春に友人から紹介され、春期講習を受けて決めました。

玉光：理Ⅲに進学した高校の先輩*がグノーブルを凄く高く評価していたので来てみました。高２の秋でした。*梶原　健さん　（学芸大附→東大理Ⅲ）

井上：私も高 2 の時です。部活のとても頭の良い友人がグノに通っていて、強く推薦してくれたことがきっかけです。

小林：中学の頃母が「いい塾らしい」という噂を聞きつけてきて、まず数学から受講しました。

平林：私は兄の推薦で、中学から英語と数学、国語の３教科でお世話になりました。

加藤：小学生の時に通っていた塾の先生の勧めで来てみて、先生がとても良かったので決めました。

田中：グノにはＪＧの生徒が多く通っていたのと、大人数の授業はいやだったからです。

奥戸：私は高１の冬から英語、その後国語でお世話になりました。母が中山先生の噂を聞いて、積極的に勧めてくれたのがきっかけです。

安田：実は別の数学の塾を探して新宿を歩いていた時、偶然グノの警備員さんを見かけて…。名前は知っていたので気まぐれで英語の講習を申し込んだことがグノとの出会いです。

Ｑ ：グノーブルに決めた理由は何？

中村：最初の春期講習を受けた時の感触です。当

然いくつかの塾を見てまわりましたが「これならしっかり続けられる」と思えたのはグノだけでした。

小林：決めたのは母親ですが、続けられた理由は、やはり先生との距離感です。

僕は中学時代からお世話になっていますが、

最初の頃は何しろ纓田先生の授業が楽しくて。中学生の目線に合わせてくれて、それでいて確実に力がつくのは、やはり目配りができる先生のプロ意識と少人数制ならではの特徴だと思います。

恩河：塾の基本方針と信念が明確だったところです。それと、初めて受けた夏期講習で、最初から名前で、しかも正しい読み方で呼んでくれたことをとても嬉しく思いました。僕の名字はたいてい間違われるので（笑）。また、英文を読みながらいろんな知識がどんどん入って来る授業が楽しくて、「ここしかない」と思いました。

井上：私の場合は大人数の塾や予備校は苦手で、

より先生と近い距離で学ぶことが前提でした。また、塾の小冊子を読んでいたら「いろんな塾を検討してグノーブルに来ました」という声が随分あったので「ここよりいい塾はたぶんないだろうな」と思い決めました。

玉光：僕は帰国生なのですが、英文を頭から読みこなしていくというネイティブ的感覚の授業がしっくりきたところです。

加藤：勉強嫌いな私の場合、たぶん大人数の塾や予備校に通ってもだめだったと思います。今考えると中学生の頃は、数学の纓田先生と英語の関田先生には、ほぼ家庭教師のような感じでお世話になりました。中学時代にグノで両先生との出会いがなければ、今私はここにいませんでした。

田中：やっぱり少人数だったところですね。質問もどんどんできましたし。特に私の場合、数学は苦手でしたから。

平林：体験授業を受けて、楽しさを教えてくれる塾だと思いました。授業を１度受ければ、先

生の質やその塾の風土のようなものが分かります。授業が退屈だと時間が過ぎるのがとても長く感じられるし、寝ている人すらいるほどです。その点グノの場合、演習→添削→解説という流れで授業をおこなうので、自分で頭を使えるし、達成感も感じられました。

奥戸：私の場合は、その先生を好きになれるかどうかと、授業が楽しいかどうかが相当大きな比重を占めます。結局のところ先生を好きになれなければやる気も起こりませんから。塾や先生からやらされても楽しくないし、身につかないと思います。

安田：僕の場合は入る時は完全にフィーリングでした。グノーブルは居心地もいいし、1回授業を受けただけでも、「なんか伸びたな」って実感できて「ここでやって行こう」と思えました。

Q ：グノーブルの良かったところは？

玉光：グノの英語の特徴に、英文を頭から読みこなしていくというものがありますが、中３までアメリカにいた僕にとっては英文を頭から読んでいって意味をとるのは当然でした。でも、いくらすらすら読めるからといっても難度の高い大人が読む英文は話は別です。グノでは難しい英文の内容を深く、そして限りなくネイティブ的発想で学べたところが、僕にとって一番のメリットでした。

井上：英語も数学も、グノでは緊張感を持って授業に臨めたところが良かったです。

東大の本番でも似たような緊張感がありましたが、今思うとグノは私を本当に強くしてくれたと思います。

恩河：英文が速く読めないところが自分のウイークポイントだと分かっていたので、グノで教わる、英文を頭から読みこなす方法はとても役立ちました。あと、語源までさかのぼって単語を覚えていくというのは非常に有機的な勉強方法で、単語帳を使って必死に覚えるよ

うなことをしなくても自然と語彙を増やすことができました。また、こうした授業は中山先生の授業だけでなく、すべての先生方の共通した指導方針となっていたところに塾としての質の高さを感じました。

小林：他でも数学を受けたことがありますが、宿題をやっておこなって先生がその解説をするという授業だったんです。こうしたやり方が普通なのかもしれませんが、これでは実戦力が身につかないような気がします。グノの場合は英語も同じですが、数学でも授業の中で演習をおこない、即、解説が始まる形式なので、前向きになれますし、理解度も全然違いました。また先生たちは、生徒一人ひとりの力をよく理解してくれているので、無駄な説明がなく肝心なところだけを教えてくださるところが良かったです。

玉光：あと、ＧＳＬ（グノーブル英語音声教材）はネイティブが自然に言葉を使う感覚に導いてくれるとてもいい音声教材だったと思います。英文を速く読むには英語的な流れが身に

ついている必要があります。実際に音声を聞きながら発音して、その言葉を頭の中で再現する訓練を繰り返すことで、読むスピードが上がっていくのを実感しました。とても理にかなった勉強方法だったと思います。

中村：なんといっても音読です。ゆくゆくは留学したいと考えているので、受験では直接問われないけれど話せる力をずっと意識して常に音読をやっていました。最初のうちは口がまわらなくてＧＳＬについて行けませんでしたが、英語を話すための「筋肉」をつける訓練にもなったと思います。また同じ英文を何度も口に出して読むことで、英文ごと頭に入っていく感覚があって、多少分からない単語が出てきたとしても文章全体の意味がとれるようになりました。

安田：確かに、内容理解を伴った音読は効果があります。慣れるに従って、英語の語順のまま読むことが普通にできてきます。素早く意味

がとれるようになるしストレスがありません。返り読みをしながら意味をとっていく勉強方法がいかにナンセンスだったかと思います。

小林：音読って疲れますよね。で、通常授業のときは気のすむまではやれなくて、でも、講習とか休みのときはしっかりやるわけです。そうするとなぜか、授業の演習でも手応えが変わるんです。これは、普段は英文を目で追っていても、分からないところを読み飛ばしている証拠だと思います。英文を声に出して読むことの大切さを痛感しました。

安田：あと、これは周りの人のレベルが高かったからこそ実現できたことだと思いますが、僕にとっては量と質のバランスが非常に良かったと思います。入塾した当初は演習プリントが時間内にぜんぜん終わらず相当苦戦していました。ところがやっているうちに問題を解くスピードが上がってきて、さほど追い立てられる感覚を持つこともなく問題を解けるようになりました。よく「グノで学ぶと自然と英語ができるようになる」という話を聞きま

すが、僕の場合も、まさにそんな感じで英語の力を大きく伸ばしていくことができました。

奥戸：学校や他の塾ですと授業中に当たり前のことや分かりきったことを説明したりしますよね。私はそれがすごく無駄な時間だと思うのです。その点グノの場合は先生が全員の力を把握しているので、全ての時間が、それこそ１分１秒が大事な時間でした。本当に密度の濃い授業でした。たとえ受験とは直接関係のないことでも、英文の背景的なことで、中山先生の話す話には必ず大事な内容が潜んでいるので、全てを聞きもらすまいと誰もが真剣に授業に臨んでいました。そこがグノの何より素晴らしいところだったと思います。

平林：直前講習のときに、科学雑誌のサイエンスで発表されたばかりの「テスト不安」の論文を、中山先生が東大型の問題にアレンジして扱ってくださったんです。テストの直前に自分の不安を１０分間、箇条書きにすると不安が軽減されるという内容で、私は実際にそ

れを試してみたんです。すると本当に緊張がほぐれて平常心で私大にも東大にも臨むことができました。中山先生の授業は本当にバラエティ豊かな知識や知恵を授けてくれる授業でした。実用的な話題から時事的な話題や学術的な話題まで幅広く英語で触れられ、それをとても楽しく分かりやすく解説していただいたんです。受験のためだけじゃない、こうした授業だったからこそ受験勉強でありながらも、学ぶことは楽しいことと感じられたのだろうし、主体的に勉強に取り組む姿勢が身についたのだと思います。他の塾や予備校ではありえないでしょうね。

田中：私は、英文の主旨をいつも考えながら読む姿勢を学べたことが一番の収穫でした。他の英語の授業では構文解析や文法解説が中心で、何のために英語を読めるように勉強するのかが曖昧で…。要約の添削でも、先生のコメントから、筆者の言いたいことを正確に読み取ることが何より大切という点を学びました。

加藤：私の場合はグノに行くことが生活の一部のようになっていたので「どこが良かったか？」と改めて聞かれても悩んでしまいます。あえて言うなら「ここは塾だ」というのではなく、いろんな面からサポートしてくれて、まるごとお世話になったところでしょうか。私のことをしっかり見てくれない塾であったら、きっと周りの雰囲気に流されるまま力もつかなかったと思いますが、自分のことを忘れられていないという安心感と、逆に「見られている」という緊張感がバランス良くあったからこそ今の自分があるのだと思っています。

Q ：東大受験で実際に役立ったことは？

奥戸：今回の東大英語は、従来の１(A)、１(B)に加えて１(C)があって問題が増えていたんです。１(B)と１(C)を残して他の問題をやって、戻ってきた時には残り時間が５分。でも、グ

ノで鍛えられていたので、英文でも、日本語みたいに斜め読みができるようになっていましたから、５分でちゃんとできました(笑)。

平林：グノに来て長文ができるようになったな、と思っているんですけど、それは、授業の解説で内容的に深く細かいところまで理解している英文を何度も音読するように言われていたからです。一文一文もよく分かり、その上で全体の流れもしっかりつかんで読めるようになったのは、本当にグノのお陰です。深い内容理解や、論理展開の把握を必要とする東大の長文克服にはきわめて実戦的な指導だったと思います。

田中：そもそもグノの授業で扱う英文は普段から量も多いし難しいので、東大の問題量が増えてもさほど驚きはしませんでしたね。日ごろから「速く読まなきゃ」という意識が定着していて返り読みは随分前に卒業していましたから、今回のように想定外の問題に直面しても、グノ生ならさほど慌てることもなく対応できたと思います。

加藤：以前友だちが通っている予備校のプリントを見せてもらったことがあるんですが、これは形容詞句でこっちは副詞節で、といちいち考えながら英語を学んでいる様子だったんです。そのやり方だと東大の英語はとても時間が足りないんじゃないでしょうか。やはり英文を読むときには、構文を解析するんじゃなくて、内容を理解することに重点を置くべきだと思います。そうした意味でグノの勉強方法は最良だったと思います。

安田：文法知識は必要ないというわけじゃないけれど、グノで英語を学んでいると「言葉を読むのにいちいち理屈を考える必要はないない！」とも思えました。だって僕らは日本語を読む場合、これが助詞で、こっちが副詞でなどと考えながら読んではいませんよね。英語だって本来はそうあるべきだと思いました。

奥戸：グノーブルでは、下の学年では文法をきっちりやって、受験学年では文法をいちいち意識しなくてもいいように指導してくれます。『使える英語を学ぶ』という視点に立てば、

グノは王道を行っていると思いますね。

恩河：今年の東大は読む量ばかりでなく、書く量も聞く量も多くなって、僕の場合正直なところ胸を張って「余裕でした」とは言えません。でも、英語に馴染む頭ができていたということもあって比較的スラスラ解けたと思います。基本的に東大の英語はテクニックではできないので、グノでの勉強方法は確実に役立ちました。

小林：そうしたことに付け加えると、英語が比較的苦手だった僕でもリスニングが奇跡的に１つのミスだったんです。リスニング力も音読で上がると思います。

中村：僕は私立も受けていて、ほとんど対策も立てずに受けたのですが十分対応できました。その時に感じたのがグノの英語は東大に特化したものじゃなく、どんな問題にも対応できるということです。本命の東大英語は確かに問題数が多くなっていましたが焦ることなく取り組むことができました。逆に問題数が多くなったことで、他塾で学んできた人に「差

をつけられたんじゃないかな」と思ったくらいです。

玉光：量が増えたことに関しては「僕が終わらないなら他の人も終わるわけがないだろう」というくらいの気持ちでいました。実質的に役立ったことと言えば、もちろん速く読めるようになったということもありますが、さっきも話が出ていましたが、文章全体の主旨や論理展開を見抜く、という問題が東大では中心で、それはグノでは毎回の授業で意識できるようになっていたんで本当に良かったと思います。それから、作文も要約もいつも添削をしてもらっていたのでコツはつかめていて、本番でもうまくできたと思います。あと、グノで日頃扱っている文章の方が東大より難しいので、本番の問題は途中でつかえることもなくスラリと読めました。

恩河：文章も難度も、時間的なキツさもグノの授業の方が上で、そういう意味でも高度なトレーニングを積ませてもらえました。

Q ：授業効果を上げるには？

恩河：なにしろ周りのレベルが高いので圧倒されることもありましたが、そうした環境に刺激されつつ、先生とフレンドリーな関係を築くことです。

小林：先生が自分の名前を覚えていてくれたり、実力をよく把握してくれているので、そんな先生の思いに応えようとする気持ちです。今考えるとやはり僕は、先生の接し方から力をもらっていた気がしています。

中村：授業を楽しめるように１週間をうまく使うことですね。要約とか英作は毎回添削してもらえるんで、そのとき良い評価をもらえるとモチベーションが上がります。またグノの授業は受験勉強以外のことでも多くの知識を得ることができます。そうしたことを洩らさず自分の中に取り込むような姿勢を保っていました。少しずつ、教養が蓄積されていくのを実感できることがとても嬉しかったです。

玉光：最初の頃は要約が全然できなかったのですが、その力が上がっていくのも含めて英語が

どんどんできるようになっていくのが楽しくて、確かに授業は延長で長くなりますが、長いのが僕には良かったですね。楽しめたので。

井上：周りの人が凄すぎて、一時期諦めの気持ちが芽生えてしまったこともあるんです。あの時に「せっかく実力のある人たちと一緒に学んでいるのだから自分ももっと頑張ろう」とすぐに立ち直ることができたら、もっと学ぶことが多かったんじゃないかと、私は少しだけ後悔しています。

平林：グノで学びきるためには、自分のペースを守り、何度も同じことを復習することだと思います。

田中：私も復習です。それと授業中に当てられて間違えてもめげないことです(笑)。

加藤：あまり偉そうなことは言えないんですけど、もともと勉強が嫌いだったので、グノ以外だったらそれ以上に嫌いになっていたと思います。膨大な量の宿題を

課せられたり、頭ごなしに言われたりする塾だったらきっと耐えられなかったはずです。グノ

の先生たちは「スマートな接し方」をしてくれたので、自分なりのペースで勉強することができました。私に言えることは、先生方を信じきること。これが大事だと思います。

奥戸：やはりグノでやっていこうと思うなら、当てられて答えられなかったり、間違ったりしても落ち込まないことです。最初の添削の点数が悪くて出鼻をくじかれても頑張って授業を受けるとか、めげない力も大事です(笑)。

安田：僕もめげないことが何よりだと思います。当てられて答えられないと本当にへこむんです。まして別の人がすんなり答えようものならそれはもう…。でも、負けず嫌いの性格のせいか、「絶対次はとってやろう」っていつも前向きな気持ちになっていました。

Q ：東大を目指す後輩にアドバイスは？

井上：やはりグノーブルのような良い環境に恵まれていることをポジティブに捉えて自信を持つことです。自分の努力とグノの先生を信じて前向きに頑張って欲しいと思います。

玉光：明確な目的意識を持って勉強することです。たとえば、最初は問題集を一通りやってただ○×をつけて終わってもいいと思います。受験問題がどんなものかを知るのが目的ですから。でも、２回目には自分がどこで間違えて、それをどう修正すればいいかを考え、同じミスを繰り返さないようにすることが大事です。そんな目的意識を持って勉強をすれば実力は伸びていくと思います。またそう考えることで勉強のやり方自体も変わってきて、どんどん良い方向に向かって行くはずです。目的というのは時期によっても変わってくるので「今はこれをやらなきゃいけない」と決めたら、集中してその目的達成に向けて励むことが大切です。

中村：自分を知ることじゃないでしょうか。たとえば集中力は何分持つのか、とか、こういうことをやれば単語を覚えられるとか、自分の気づいていないクセを探すことです。そしてもう１つは敵を知ることです。目的は東大に合格することですので、ある程度の傾向を把

握して勉強に臨むことも大事だと僕は思います。

小林：高過ぎるくらいの目標を持つことです。今の実力以上の目標を見据えて学んでいけば自ずとそのレベルに達するはずです。あとはいい意味で先生を活用することです。どんどん質問をして、たくさんヒントをもらうといいでしょう。またグノはそれができる塾なのですから、先生をどんどん利用しましょう。

恩河：よく「合格の秘訣は何ですか？」といった質問がありますよね。僕の持論は「自分で見つけるべき」というものです。勉強方法なんて人それぞれですから、いろんな意見を参考にしながら自分なりの勉強方法を組み立てていくことが大事なことではないでしょうか。また、理系を目指すなら理科や数学、工学などが好きなはずです。好きだからこそ深く突き詰めたいと思うのだろうし、そのための大学だと思います。「とりあえず理系」という発想はやめて、「好き」という気持ちを大切にしていけば、どんなに苦しい受験勉強でも

その気持ちが心のより所になるはずです。

安田：受験という枠にとらわれ過ぎない勉強をすることではないでしょうか。グノだと文章の内容自体が将来に役立つものを扱っているので、それを知り理解するだけでも、自分の身になるところが随分ありました。僕は心理学や哲学に対して、グノで学びながら大きな興味を持ちましたし、それを原文で直接触れられたことは、かなり自分の糧になったと思います。

奥戸：自分がやるべきことをしっかりやる。これに尽きます。たとえば何年もさかのぼって過去問をやるとかじゃなくて、幅広い知識や物の見方を学べるグノの復習をやった方が東大受験にも、本来なぜ勉強するかを考えても絶対いいと私は思います。

加藤：私は英語の問題集や参考書は買ったこともないんですけど(笑)、どの科目も問題集を使い古すことだけが勉強じゃないと思います。例えば、英語の場合、私たちの知らない史実や文化、思想が背景にあったりするし、それは

狭い範囲の受験勉強では分からないことです。幅広く興味を持って、楽しんで学んでいくことが大事だと思います。

田中：受験に限っても、あまり東大ということにとらわれ過ぎずに勉強することが大事なことだと思います。事実、東大であろうが私大であろうが直前まではやることは一緒です。グノで学んでいることをしっかりやっていれば本番でも必ず力を発揮できます。

平林：基礎を徹底して、分からないところは分からないままにせず、質問して解決し、諦めずに最後まで頑張ること。そんな当たり前の姿勢を貫くことが大切でしょう。また、将来やりたいことを思い浮かべたり、応援してくれる人の顔を思い浮かべたりしながら勉強すれば、たとえ辛くなったとしても頑張れると思います。

2011年 **GNOBLE** 5期生　東大理系　合格者ロングインタビュー